

第43回 高知女子大学 看護学会の報告

平成29年7月22日に『変動する世界の中でケアとキュアの融合を刷新する』をテーマに、第43回高知女子大学看護学会が高知県立大学池キャンパスにて開催されました。当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の看護職者185名のみなさまの参加をえて、活気ある学術集会となりました。

講演

岡谷恵子先生のご講演の様子



講演会場の様子



東京医科大学看護学科顧問であり、高知女子大学の卒業生でもあります岡谷恵子先生に、『新たな看護の創造に向けて、今、何をすべきか』というテーマで、ご講演いただきました。

講演では、まず、ケアの歴史、ケアとキュアの関係にも触れながら、人々の健康や医療に対するニーズの変化や超高齢化社会に伴うケアを必要とする人々の増加、保健医療サービスの変化など、近年の看護を取り巻く状況の急激な変化についてお話いただきました。その中で、看護の専門職者として、多様化する人々のケアニーズを発掘し、必要なサービスを創造すること、外来看護や在宅看護を充実させることが求められます。そのために、看護は何を人々や社会にもたらすのかということ意識し、一つひとつの看護行為の意味を考える重要性について、ご講演いただきました。

学会の参加者からは、「改めて看護の役割を考え直すことができた」「時代や社会状況の中でのケア、自分の立ち位置、できることを考えさせられた」「ケアとキュアを兼ね備えた看護師として求められている役割について考えることができた」「ここ数年介護の発展が進み、看護とは一体何を求められているか考えさせられた」「医療と介護というワードが主流になっていて、看護の存在が薄れているようで危機感を感じ、看護の存在をアピールしたい」「明日からの仕事に意味を見出すことにつながった」など、多くの感想が寄せられ、これからの看護のあり方について考える機会となりました。

ワークショップ

会場の様子

ワークショップ I



ワークショップ II



ワークショップ III



ワークショップ VII



午後からは7つのワークショップを開催し、91名が参加されました。ワークショップでは、修了生や卒業生、教員の話者提供者から、実践の体験をもとに各テーマに関する報告や発表がされ、参加者との意見交換が行われました。

- ①助産師の自律性を発揮した妊産褥婦への援助
- ②医療的ケアを要する子どもの在宅支援
- ③ケアとキュアを融合した在宅での看取り ～多機関・多職種で協働して看取る
- ④EPiNurse- 災害における参加型モニタリングと看護
- ⑤困難に直面した家族のレジリエンスを高める援助
- ⑥キュアの中にあるケアに気づくシミュレーション教育の挑戦
- ⑦看護の実践を語ることで気づく自己の成長

総会

大学の生協食堂にてランチ形式で行われた総会には、●名の学会員が参加しました。議長には学部34期生 野田真由美氏と博士8期生 大西ゆかり氏が選出され、平成28年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、いずれも承認されました。審議事項として、会則第7条役員について、「会計監査」を「監査」に名称変更を行うことが提案され承認されました。続いて、平成29年度事業計画案について第43回学会と公開講座4回の開催に加え、平成29年7月23日開催の高知県立大学大学院看護学研究科創設20周年記念事業について、高知女子大学看護学会との共催とすることが提案され、いずれも承認されました。平成29年度予算案、運営委員交代についてもすべて承認されました。